

内閣総理大臣 菅義偉様

全国戦没者追悼式での式辞に抗議します

菅義偉内閣は今年6月25日、「植民地支配と侵略への反省とおわび」を明記した戦後50年の村山富市首相談話を継承しているとの答弁書を閣議決定し、慰安婦問題で旧日本軍の関与を認めた1993年の河野洋平談話についても、政府の基本方針として継承していると表明しました。

しかし、本日8月15日の全国戦没者追悼式において、あなたは「先の大戦では、300万余の同胞の命が失われました」と述べる一方、2000万人を超えるといわれているアジア・太平洋各国の犠牲者に対しては一言も触れることなく、植民地支配と侵略への反省がまったく感じられませんでした。それどころか、靖国神社に玉串料を奉納し、8月13日に靖国神社を参拝した岸信夫防衛相、西村康稔経済再生担当相、本日靖国神社を参拝した小泉進次郎環境相、萩生田光一文科相、井上信治万博相の5閣僚とともに、中国政府及び韓国政府による強烈な批判と反発を招きました。村山・河野談話を反故にしたあなたの言動は、和解と平和を願うアジアの民衆を大いに失望させました。

また、あなたは追悼式の式辞の続く部分で「今日、私たちが享受している平和と繁栄は、戦没者の皆さまの尊い命と、苦難の歴史の上に築かれたものであることを、私たちは片時たりとも忘れません」と述べました。しかし、戦没者の死があたかも有意義で不可欠なものであったかのような意義付けは、戦争を美化するだけでなく、彼らを死に追いやった政府の責任を不問にし、アジアの戦争犠牲者の存在を侮蔑するものにほかなりません。

さらにあなたは6月23日の沖縄全戦没者追悼式の挨拶では普天間基地の辺野古移設に触れずに顰蹙を買い、8月6日の広島市平和式典の挨拶では原稿の一部を読み飛ばし、8月9日の長崎市平和祈念式典には遅刻をするなど、やることなすことが内閣総理大臣としての品格を欠き、平和を作り出すための活動に水を差しております。

私たちは、あなたが村山・河野談話を実践し、あの戦争が齎したあらゆる災禍に真正面から取り組み、憲法前文に述べられているように、「われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果」を生み出すために尽力して下さることを願ってやみません。

2021年8月15日

日本キリスト教会靖国神社問題特別委員会
委員長 小塩海平